平成２６年度倶知安町町民海外研修報告書

■期間　平成２６年６月３０日から７月９日まで　１０日間

■内容　姉妹都市提携５０周年記念公式訪問（スイス国サンモリッツ）
　　スイス観光産業セミナー（スイス国ツェルマット）

■報告者　倶知安町長　　福　島　世　二
　　倶知安町議会議長　鈴　木　保　昭
　　商工観光課長　　中　村　孝　弘
　　広報広聴係長　　久佐賀　輝　子
　　町民海外研修事業参加者　　１９名

はじめに

平成２６年は、倶知安・サンモリッツが姉妹都市提携５０周年であり、サンモリッツ市長をはじめとするサンモリッツ訪問団６名が５月２７日から２９日の日程で来町されました。５月２８日には、倶知安・サンモリッツ姉妹都市提携５０周年記念式典が盛大に執り行われました。

今回のサンモリッツ公式訪問にあたってはサンモリッツで OVAVERVA というスポーツ・スパ施設のオープニングセレモニーに福島町長が７月３、４日招待されたことで、姉妹都市提携５０周年を記念し、サンモリッツ公式訪問として町民海外研修参加者１９名とともに公式訪問を実施する運びとなりました。

サンモリッツへの公式訪問は平成１２年の訪問以来通算４回目１４年ぶりです。

平成２６年度サンモリッツ公式訪問・町民海外研修事業概要

６月３０日（月）

午前１０時、役場庁舎前で出発式を終えた一行は、貸切バスで新千歳空港へ向かう。

出国手続きなど特にトラブルはなく、１４時１５分新千歳空港出発し、１７時１０分韓国仁川空港に到着。時差はなし。入国審査を経て貸切バスにてホテル Hyatt　Regency Incheon に移動、その後夕食をとるため貸切バスで焼き肉店へ移動。夕食後貸切バスでホテルに戻り１日目は解散。

７月１日（火）

朝食後、空港周辺の仁川（松島国際都市）を視察。空港から１５分。

２００５～２０２５の計画で開発が進められている。韓国のドバイといわれている。経済自由区域に指定、国際業務や知識基盤産業 IT などの先端産業の中心地として開発中。

ケッポルタワー…韓国で一番高いタワー、ケッポルとは干潟の意味

松島コンベンシア…貿易センター（韓国で一番高いビル　６８F）

コンベンションセンター　曲線美をいかしたビル

コンパクト・スマートシティ…仁川広域市の過去、現在、未来の展示・観覧施設

視察後、昼食をとり、仁川空港へ。

１５時１０分仁川空港を出発し、約１３時間現地時間２０時スイスチューリッヒ空港に到着。サマータイムのせいか、夜９時くらいになってやっと日が暮れ始める。

入国手続き後、空港から徒歩により２１時３０分宿泊ホテル Radisson Blu Hotel Zurich Airport に到着。チェックイン後解散。

７月２日（水）

朝食後、チューリッヒ市内視察。グロスミュンスター（大聖堂）など旧市街地の散策、アインシュタインが卒業したスイス連邦工科大学の見学、フラウミュンスター（聖母聖堂）は中を見学、中央の聖堂部分にシャガールが制作したステンドグラスがある。

チューリッヒは人口４０万人、スイス最大の都市、首都はベルン人口１４万人。スイスは不動産バブル。アパートでも単身用家賃１０万円、４人家族で２５万円。不動産は高い。ほとんどがアパートで、一戸建てはあまりない。スイスの平均月給５３００フラン、日本円で約６０万円。消費税は内税衣料品は２．５％、時計等８％、観光客は一店舗３００フラン以上でタックスフリーの手続きが出来る店もある。

地下、湖を利用した駐車場。料金所がない高速道路は、一年間走り放題のシールを購入。

チューリッヒ４０万人の人口のうち、３５％は外国人、６５％が混血で移民の都市。ジュネーブは７５％が外国人。

昼食後、１４時サンモリッツへ向け貸切バスで移動。チューリッヒより２０４Km。約３時間３０分。チューリッヒ郊外からサンモリッツへはのどかな風景がひろがる。１７時３０分サンモリッツのホテル Nolda に到着。ホテルでは意外にも日本人の観光客が多く宿泊

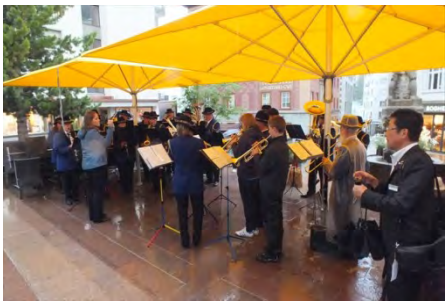
していた。チェックイン後、ホテルの部屋にはサンモリッツ側よりパンフレット一式（ピンバッチ、ステッカー、絵はがき、パンフレット）が用意されていた。１８時３０分送迎バスにより、Plazza Mauritius へ。あいにくの雨ではあったが、プラザ前では、学生による吹奏楽により歓迎をうける。市民の方々も倶知安町の旗を振り、歓迎をしてくれた。

Plazza Mauritius に入ると、ウェルカムドリンクと軽食が用意されていた。オメガの赤色のキャップ帽とサイン入りカタログが入ったオメガの紙袋を手渡される。アルプホルン演奏による歓迎もありその後、アスプリオン市長より歓迎の挨拶、福島町長が挨拶を行う。

２０：００会場を移動し、Hotel　Steffani での会食。市長はじめ、議長、議員、市の関係者との懇親。

２２：００会場より宿泊ホテルにバスで移動。

２２：３０解散。



７月３日（木）

朝食後、送迎バスにより８時４５分ホテル出発。

【Grevas 校】

児童が学校前で歌でのお出迎え。天気も良くまじかで絵はがきのような連山の景色は、実際に見なければ味わえない感動的なものだった。

スクールシステム、スポーツ教室、選抜教室についての説明を受ける。

子ども達の状況にあわせ、専門的なコース・総合的なコースの選択（１２歳）

こどもの数　幼稚園（５、６歳）７２人（徒歩で通園）

小学校１～４年　１クラス　１５人程　１３クラス　２１０人

高等学校はサンモリッツ以外へ

教師数　　幼稚園７人、小学校１３人、高等学校５人、英才授業４人、専門１８人
１～４年、高等は本校、５、６年は別校（スペースの問題による）
幼稚園児は８時～１２時遊び、１４時～１６時本校で小学校の準備
小学校１～６年、高等７～９年
保育所では幼稚園児の親が共働きの場合は、１２時～１４時の昼食時間や１８時まで受け入れ、１２時までは無料、１２時以降は有料（所得による）。
児童のうち３９％はスイス人ではなく、そのうち３３％はドイツ語を話せない。ドイツ語学習は週２回（必要に応じる）。ドイツ語が全くできなかった子でも、２年後には完全にマスターできた優秀な子もいる。
スポーツ学校について
昨年８月に設立、利用しなくなった施設を活用。
ソチ五輪では金６個獲得、すべてエンガディン地方出身者。
当初は１４名の生徒でスタートした。
チャンベル市ではホッケーがさかん。
スクールシステム、スポーツ教室、選抜教室の説明のあと、調理室、技術室を見学させてもらい Grevas 校をあとにする。
お土産…じゃが太くんボールペン、マグネットシール、じゃが太くんシール、雪ダルマ缶バッチ

１０時３０分　グループ１・２に分かれ施設見学
グループ１（男性）セガンティーニ美術館
グループ２（女性）発電所

【発電所】
ST. MORITZ　ENERGIE のロゴが入った紺色のキャップ帽・ボールペン・メモ帳をいただく。
法人エネルギー団体、職員２２名
歴史・団体・水力発電について説明（ルミナティさん、アザカンデさん）

サンモリッツは水力発電がスイスで最も古く、電気が通ったのもサンモリッツが最初。

１８７８年クルムホテルが最初の電気、湖のそばに水力発電がある。
年間２５億の売り上げ、政府に支払う税金は９，１００万円。
ふたつのダムで水量調節　自然湖　冬凍っていても氷の下の水を使用している。
夏、湖では普通に釣りをしたり帆船に乗ったりしているその下で、大規模な冷蔵庫（湖）がエネルギー熱の再利用をし、その熱を住宅へ供給している。
以前はほとんどが火力発電だったが排出ガス削減をめざし、水力発電に力を入れている。
水力発電によるシステムは昨年から開始しておりまだ完全稼働ではない。
別のシステムでは、アイスホッケー場において利用　エネルギー→氷→熱→湖
水力発電では１００％エネルギー需要ができないので、火力発電も活用している。
冷却措置　水道パイプライン→冷水→あたためる。
湖へのパイプライン　４℃から１℃へ（冷却措置）→湖へ戻す（３℃エネルギーとして供給）
配給管　川の下　パイプラインでプールまで運ぶ。
新規屋内プールをあたためるためにつくられた。
水をエネルギーにかえる。
投資額　　７億９，８００万円
クレジット額　１億７，１００万円（市が提供した金利無額　市からの借入　利息無）
　　残り６億２，７００万円は本会社の運用。

現在７０％が水力発電、３０％が火力発電。
昔は石油を大量使用→今は公害や自然環境を考え水力発電へ移行。
説明終了後、未稼働の発電施設内を見学。
見学後、バスにより移動。

１１時４５分　バスからケーブルカー・ロープウェイにより
【ピッツネイル】
ロープウェイにより頂上まで行く途中、ワールドカップなど大会時にしか止めないスタート地点にロープウェイ会社の計らいにより特別に降り立つ。そこには日本の国旗と姉妹都市提携５０周年を記念するポスターが掲げられていた。スキーワールドカップの紹

介・説明を受ける。頂上のレストランで昼食をいただく。
観光協会、スキースクール、登山鉄道のお話。
サンモリッツのロゴ入り手帳、スキースクールからスキースクールのバンダナ黒白２枚・板チョコ・ピンバッチがセットになったものをいただく。

［観光局］

２００６年１１月２６日住民投票により、正式な観光局として承認。

２００７年５月１日より運営を開始、１つのゲマインデにより設立されたが、今では１３のゲマインデにより成り立っている。従業員数は、約６０名。インフォメーションセンターは１４ヶ所。マーケティング予算は９億２千万円以上。

《旅行者へのサービス》

ベルグバーネン・インクルーシブチケット…エンガディン・サンモリッツ地域１００件以上の加盟ホテルに５月１日から１０月３０日までの期間、２泊以上宿泊者への登山鉄道、ケーブル無料提供

サンモリッツは冬の観光が始まって１５０年。
冬季オリンピックは１９２８年・１９４８年に開催。
アルパイン・ワールド・スキーチャンピオンシップは１９３４年、１９７４年、２００３年と、今後２０１７年に開催予定。
説明終了後、１５時１５分グループ１（男性）は発電所
グループ２（女性）はセガンティーニ美術館へ移動
観光局・スキースクールへのお土産…町章ピンバッチ、Natural Wonderland Kutchan、Niseko Area Navi、A HISTORY of POWDER SKIING in NISEKO、じゃが太くんエコバッグ、雪ダルマ手ぬぐい

１５時３０分移動

【セガンティーニ美術館】

本来、絵画の撮影は禁止だが、サンモリッツ側の計らいにより、倶知安からの訪問者は特別に絵画の写真撮影が許可された。１６時２０分まで自由見学。

ジョヴァンニ・セガンティーニは１８５８年1月１５日アルコ（イタリアトレント州）で生まれた。ミラノでブレラ美術大学に通い、１８８０年にはミラノに最初のアトリエを構えた。１８８６年には、スイスグラウビュンデン州オーバーハルプシュタイン地方の農村サヴォニオンに居住後、４１歳で亡くなるまではエンガディン地方で過ごしている。

象徴主義を代表する画家。人生最後の５年間をエンガディン地方で過ごした偉大な芸術家を称えるため、１９０８年に建てられた。アルプス三部作（生・自然・死）は１９世紀末に実現した当時最後の意味深い象徴的な絵画のひとつ。

見学後、ホテルに戻る。

１８時３０分 Muottas　Muragl での Dinner のためホテルよりバスで移動。

ケーブルカーを使い山にあるレストランへ。１９時より会食。サンモリッツのロゴパッケージのお菓子（Mini - Nusstorte）のプレゼントあり。

荒野洋子さんが書を実演披露。サンモリッツの方々は、描かれる書を興味深く見入っていた。

お土産…町章ピンバッチ・扇子・Natural Wonderland Kutchan、Niseko Area Navi、
A HISTORY of　POWDER SKIING in NISEKO

２２時３０分ホテルへ移動。

２３時ホテル着解散。

７月４日（金）

８時４５分バスによりホテル出発

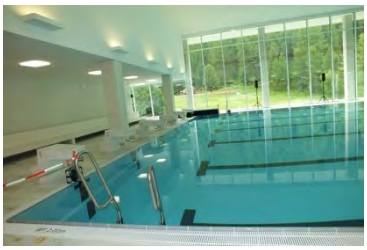
サンモリッツの隣に位置する Maloja の谷を見学、近隣 Sils の土産屋に立ち寄る。家など建物の壁や窓に描かれている模様により、生活の状況がわかるとのこと（模様が豪華なほど生活状態がよい)。サンモリッツへ戻り街中にあるルミナティ夫人が経営しているお土産ショップへ寄る。その後、サンモリッツにある唯一の小さな飛行場を車中より見ながら１２時半過ぎ郊外の飛行場近くで昼食。その後、スポーツ・スパ施設 Ovaverva へ移動。

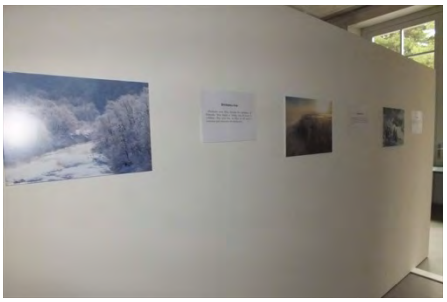
１３時４５分７月７日のオープンに先立ちプール、サウナ、温泉施設内を案内していただく。カップル用のリラグゼーションルームもあり、高級感にあふれていた。

１４時３０分 Forum　Paracelsus のオープニングセレモニーに出席。Forum Paracelsus は、1800 年半ばに建てられ、２年前から修復工事が行われていた。倶知安訪問団一行分の席として会場の前列が確保されていた。

オーケストラ生演奏、代表者、建築者（大学教授)、町長挨拶、
内覧会（倶知安の水に関する写真パネルの展示あり）

１６時３０分　ホテルに移動





１８時３０分　ホテル出発、５０周年記念式典へ、２頭立ての幌馬車３台がホテルへ迎えにくる。あいにくの雨ではあったが、普通車で１０分程度のところ馬車のため３０分をかけ、会場 Badrutt's　Palace に到着。ドリンク・軽食後５０周年記念の挨拶を、サンモリッツ市長・議長、倶知安町長が行う。その後会食。会場入り口には、昨日荒野さんが書いた書が２枚ともきれいに飾られており、お心遣い、おもてなしの素晴らしさが感じられる。

生演奏にスイス舞踊、倶知安からはじゃが音頭の舞踊を披露、５つ星ホテルにもかかわらずご好意により豪雪うどんの持ち込み、厨房へいれていただき小野幸子さん指導のもと、うどんをゆで、つゆ加減の調整をして、うどんをメニューとして出していただいた。前日

に決まった話ではあったが、こころよく引き受けていただき、しかも、メニューリストにも Noodle　Soup　Asian　Style と掲載してくれていた。

サンモリッツ側は皆さんご夫婦での出席。各テーブルに折り紙を置かせていただき、各テーブルで鶴や奴、兜などを折って、交流が図られた。荒野さんは、前日夜や当日朝に色紙数十枚に書いた書をサンモリッツの方々に手渡し、大変喜ばれていた。

町からのプレゼントは、町長の書、こけし、研修参加者全員より渡辺洋一さんの写真を贈呈。

最後にはサンモリッツの写真家マックス・ヴァイスさんの写真集（日本語版、５０周年記念ポスター貼付）のほかサンモリッツ市長より、サンモリッツパッケージのチョコが入ったスイス国旗つき陶器カップを一人一人にプレゼントしてくれた。最後の最後までおもてなしが素晴らしく、あらゆる点で行き届いていた。

２３時バスでホテルに戻り解散。

７月５日（土）

７時３０分サンモリッツ市長ほかお見送りのためホテルに到着。早朝ながら、サンモリッツの多くの関係者がお見送りに来てくださった。おみやげぐいのみを渡す。

３日間過分なまでのおもてなしをうけ、サンモリッツをあとにした。

８時ホテルからダヴォスに向け出発。

９時２０分ダヴォス到着。３年に１回のヨーデルフェストを見学。

ヨーデルは 1000 年以上前からありヨーデル・ホルン・旗振りの種目がある。

アメリカでは旗振り専門学科があるほど。

アルプホルンはチベット、ピレネー等世界各国。

スイスでのヨーデルは１９５７年から山岳地帯の土地柄から呼び声、叫び声から始まる。

ヨーデルの最高記録　時間１４時間３５分、音１分間２２音。

会場は、３つに分かれ、各会場で行われており、開始前までに各会場入場制限がかけられるが、好きな会場を自由に観覧することができる。

１２時昼食会場へ移動。

１２時３０分着昼食。

１４時ツェルマットへ向け移動。フルカ峠などツェルマットまでの道のりは今まで味わったことのないほど険しく、カーブが多いうえ、道幅が狭く、ガードレールも頑丈なものではなく、対向車を交わすのがやっとの状態。崖のようなところを長らく走り、数時間。やっとテーシュに到着。

１７時テーシュ駅着。ツェルマットに、エンジン付きの車は入れないためシャトルトレインにより移動。住宅は統一感があり、どこも窓に花を飾っている。

１７時ツェルマット着。徒歩にてホテル Best　Western　Alpen　Resort へ。

１７時３０分ホテル着。街を散策。ネズミ返しの小屋（ヴァリス地方独特の黒いカラマツで造られた高床式倉庫、床と小屋を支える柱の間にネズミを寄せつけないよう円盤状の石をはさんでいる）。

１９時３０分ホテルで夕食。この頃から雲に隠れていたマッターホルンが見えてきた。

２１時解散。

７月６日（日）

９時ホテル出発

登山電車ゴルナーグラード・モンテローザ鉄道にて標高３０８９ｍ のゴルナーグラード駅へ。展望台よりマッターホルンを眺望。

下山後、ツェルマットの街で昼食。

昼食後、宿泊ホテル内でスイス観光産業セミナー。

１４時「スイス観光産業セミナー」講師 Judith　Stetter さん

（NIKKO TRAVEL＆TRADING 社長）

スイス人。ガイドの手配、日本へのツアー手配等を行っている。１９８３年日本（東京吉祥寺）で１年間ホームスティ、日本には３５回来ており、３月には倶知安へ来町、サンモリッツ大橋など視察したとのこと。

助手　中島さん

ツェルマットについて

３８の山々が連なる。

１９世紀初め貧しい農民の村。

英国人エドワードウィンパーがマッターホルン登山を１９回トライ→１８６５．７．１３成功したが、７人中４人が生きて帰れず。

車の乗り入れ禁止、ヴァリス地方独特の町並み。

ロッククライミング、山岳ツアー。

４００㎞ハイキングコース・スキーコース。

夏でも雪が解けずスキー・スノーボードができる。

１３世紀までは夏氷河なし、イタリアへ歩いて行けた。１３～１９世紀にかけ氷河がながくなる。

はじめは、夏の間だけ５家族が集落をつくり生活し始めた。

１７９１年　ツェルマット村誕生
　　プラットグラニー→ツェルマット　ドイツ語　ツェル（近く）
　　（ラテン語）　　マッテ（緑・放牧）
　　緑の近くの意味
１８３９年　現在のモンテローザホテル　当時はペンション部屋３室のみ。
１９３２年　モンテロッサ（氷河が欠けている山の意味）
　　山の名前は山の形、特徴をみながら決定。

毎年約３，０００人登頂。
早くて往復３時間、一般的には片道３時間。
日本の山はなだらかなので神とあがめらているが、ヨーロッパでは、山は険しく危険なため悪魔・デビルと恐れられている。
ツェルマット人口５，８００人　冬期間は６，０００人うちポルトガル人が２割。
シェンゲン協定（加盟国間における国境での出入国管理をなくして、人やものの行き来をもっと自由にする EU の協定、現在ヨーロッパの２６ヶ国）による。

ホテル１４０、レストラン２５０、ベッド数１４，０００。
アパート・レントハウス・貸別荘・ホテルで冬人口３０，０００人　宿泊客２００万人。

１９０２年　ウインタースポーツによりブーム到来。
６０％は冬の観光客、４０％が夏の観光客。
クリスマス・お正月は２週間の滞在。

７／６　ツェルマットマラソン→電車・ケーブル・食事は無料のため売り上げはほとんどないがたねをまくようにプロモーション活動を行い、今後につなげる。
ツェルマット観光事務所代表　ダニエル　ルッケン
観光予算７００万フラン　約８億
村長任期は４年　議員は７人毎年改選。
ケーブル・登山電車は個人の会社。
税金はゲマインデに入る。
テーシュ（パーキング）
ランダ（ゴルフ場）　　この２つのゲマインデでの観光協会

当初からの５家族の発言力が大きい。

最終的に物事を決定するのはこの５家族。
家に花を飾るのは義務ではなく各自行っている。
１９３０年～車社会（ほかの町）
ツェルマットはこの先１０年は馬車としたのが、次の１０年、次の１０年と継続し現在の車乗り入れ禁止に至っている。

電気自動車は、１台１，０００万円。エコであるがバッテリーの交換が必要。
ガソリン車は警察２台、消防、霊柩車のみ。（ゲマインデ）
村の警察は電気自動車、罰金は４万円。
ゴミ関係
ホテル１４０　レストラン２５０
生ごみ　Ｈ２６．１～リサイクルステーション利用
以前は電車で処理施設へ→生ごみ４０％、ペットボトルはスーパー等に戻す
自宅ゴミ―ゴミ袋
ゴミ回収は昼間
１８９８年～ゴルナーグラード鉄道、レール会社　土地とも５つの家族が運営
各山のポイントにケーブル・展望台あり。
観光客年間　NO１　スイス人
２　ドイツ人
３　イギリス人
４　日本人

冬シーズン毎週土曜日１６歳までリフト無料（地域関係なく誰でも）。
公式大会－オフィシャルコースがないため、公式大会はなし。
現在コース等プロジェクト起ち上げ中。
１時間のセミナーのところ、質問等含め約２時間行っていただく。

セミナー後自由時間１６:００～ツェルマットの街を散策

１９:００ホテル内での夕食

２０:３０解散

７月７日（月）
朝食後、９時５０分ホテル出発
徒歩でツェルマット駅へ→シャトルトレインでテーシュ駅→貸切バスに乗り換え→コペンシュタインから途中カートレイン（車両貨物、一般３０分ごと２５フラン　３，０００円、バス１時間ごと１９０フラン　２０，０００円）でスイスの首都ベルンへ

スイスについて
地名ラテン語
ドイツ・フランス・イタリア・オーストリアに隣接
国旗１３世紀～
１６世紀スイス連合、赤十字の源　独立への強い意志
エーデルワイス（アルプスの星）

首都ベルンについて
１６４８年から首都
人口１３万人弱、スイスで４番目の都市
２３州　２６地方自治体
１２９１年建国当時は３州
１９７９年に２６州
国道４，１００㎞　７０％山岳　３０％平原
三大川　ライン　ロール　ドナウ
ベルンの名　ドイツ語で「クマ」
１９８３年　旧市街世界遺産に登録
核シェルター　５，１００ヶ所　８６０万人分
２０１１．３．１０　核問題可決
バラ公園
大聖堂
牢獄塔　１８９７年まで牢獄として使われていたことからこの名

時計塔　基盤部分最古の建物

チューリッヒへ移動
１９時夕食
２１時ホテルへ　チェックイン後解散

７月８日（火）
８時ホテル出発　徒歩で空港へ　出国手続き後１０時４０分発パリシャルルドゴール空港
１２時着　１３時３０分予定より約一時間遅れで出発

７月９日（水）
７時３５分　　仁川空港着
１０時１０分　仁川空港発
１２時５５分　新千歳空港着
１４時３０分　貸切バスにより新千歳空港出発
１６時５０分　倶知安町役場到着

おわりに

今回、１４年ぶりの町民海外研修、しかもサンモリッツ姉妹都市提携５０周年という記念すべき年にサンモリッツ公式訪問に同行させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。サンモリッツの景色のすばらしさ、写真や絵はがきでは見ていても、実際まのあたりにした景色はなんとも目をみはるものがあり、とても感動的でした。

なんといってもサンモリッツでのおもてなしについては、すべてにおいて行き届いており、２日の夕方到着してから５日朝出発するまで、細部にわたりコーディネートをしてくださいました。プレゼントについても、各場所でいろいろいただき、町をあらゆる面あらゆるものでPRできていると実感しました。

こちらでも、お土産を考慮しそれなりに用意していったつもりではいましたが、サンモリッツのおもてなしがあまりにも素晴らしかったためとても恥ずかしく感じました。

当町に訪問された方々からは、倶知安ではいろいろな計画をたてていただき大変楽しく過ごさせていただいたとの言葉をいただきましたが、実際サンモリッツを訪問するととてもレベルが違いすぎると感じました。倶知安を訪問された際のスケジュールについても、時間に余裕がなく反省すべき点は多々あったと思います。

サンモリッツの長い歴史の中で培われたおもてなしの精神に直接ふれ、今後のまちの発展に活かせることを考えなければなりません。サンモリッツでもう少し自由な時間があれば街の様子や市役所、姉妹都市倶知安のプレート盤なども確認してみたかったです。

今回を機にこれからますます交流を盛んにしていくための事業について考えていかなければなりません。職員についても、予算上厳しいとは思いますが、それぞれの担当分野での研修を姉妹都市でできればと考えます。実際行ってみなければ状況もわかりません。姉妹都市サンモリッツへ行った職員はほんのわずかです。一人でも多くの職員に姉妹都市を訪れる機会が与えられればと思います。ただ、英語が出来なければ、自分でコミュニケーションをとることが難しいため、英語を身につけることがとても重要だと痛感しました。

学生交流は今後も活発に継続し、併せて職員・住民が交流できる機会を増やし交流ができれば、訪問・研修した者それぞれがサンモリッツから学んだことが、今後倶知安のまちづくりに活かせるのではないかと思います。